

中国語のイエス・ノー疑問文の構文パターンについて

—邵敬敏他(2010)『汉语方言疑问范畴比较研究』のデータを用いて—

張 麟声

1 はじめに

イエス・ノー疑問文(yes-no question)とは、文の命題が真か偽かを問う疑問文のことであり、対極疑問文(polar interrogative)とも呼ばれる。文の命題が真か偽かを問うその表現機能は一つであっても、言語によってそれを担う構文パターンはさまざまである。このような視点に立脚し、世界の諸言語を視野に入れて、中国語の構文パターンの「類型的特徴」を明らかにするのが、本稿の目的である。

Lindsay J. Whaley(1997)では、言語類型論の立場から、イエス・ノー疑問文における3種類の構文パターンが紹介されている。

一つ目は、倒置(inversion)と名付けられているが、英語の *Would you care to dancer* のように、平叙文における助動詞などを文頭に置いて作る、よく知られているイエス・ノー疑問文のパターンである。

二つ目は、疑問の小辞を使うケースである。疑問の小辞は普通文頭か文末のどちらかに使われるとされ、文頭に使う例としては聖書ヘブライ語、文末に使う例としては、モンゴル語があげられている。このパターンについて、Lindsay J. Whaley(1997)ではさらに次のように Dryer の考察を引く形で付言がなされている。

疑問の小辞は文の両端に限定されるわけではなく、文中の決まった場所に現れたり、位置が可変的な場合もある。しかし通言語的に見れば、頻度が高いのは文頭か文末に生起する疑問の小辞である。基本構成要素順序と疑問の小辞の位置の間には一般的な相互関係があり、目的語-動詞(OV)の順序をもつ言語では、文末の小辞がはるかに広く見られる。VO 言語と文頭の小辞の間には弱い相関が見られるが、より保守的なサンプリング手法をとった場合、この相関は統計的に有意なレベルには達しない(Dryer 1992)。

(リンゼイ J. ウェイリー著、大堀壽夫・古賀裕章・山泉実訳(2006) pp.242)

三つ目は動詞接辞によって作られるものである。あまり知られていない言語に見られるパターンであるために、以下、その記述をまとめた形で引用する。但し、(8)の引用元とされる Sadok and Zwicky (1985)を筆者は確認できておらず、(8)はあくまでウェイリー(2006)からの引用であることを断っておく。

対極疑問文は動詞接辞によっても作られる。下に示す例文はグリーンランド・エスキモー語(エスキモー[イヌイット]:グリーンランド)からである。

(8) a. Piniar-a

狩る-3 単数.疑問

「彼は狩りをしているか？」

b. Igav-a

料理する-3 単数.疑問

「彼は料理をするか？」

(Sadock and Zwicky 1985 から)

このケースでは、疑問の接辞は直説法と命令法の節で使われる人称の標識とは範列上の対立を示すため、ムードの標識と見なすこともできる。

(リンゼイ J. ウェイリー著、大堀壽夫・古賀裕章・山泉実訳(2006, pp.242))

以上のように、Lindsay J. Whaley (1997) では、イエス・ノー疑問文の構文パターンが3種類紹介されているが、世界の言語をつぶさに観察していくと、当然ながらこの限りではない。筆者はかつて張(2014)¹において、上述の1と2をそれぞれ①助動詞左方移動型、②疑問終助詞使用型と称し、そのような①と②に対して、典型的な孤立型 SVO 言語では、③「正反並列型」というまったく別のパターンが用いられることを主張している。

張(2014)の言う典型的な孤立型 SVO 言語は、カンボジア語、タイ語、ラオス語、ベトナム語などのことであり、中国の公用語である中国語は、これに含まれない。中国語は殷民族の SVO 言語と周民族の SOV 言語が接触して生まれた混合語であるという西田龍雄(2000)の仮説に、筆者は基本的に賛同している。また、そのようにして生まれた中国語は、その後も主に SOV 言語と頻繁に接触し、接触が起こる度に、言語が全体的、または、部分的に変容を遂げてきていると想定している。

本論文では、このような筆者の認識を踏まえて、中国語のイエス・ノー疑問文の構文パターンを、共通語である北京語、及び、その地理的なバリエーションである諸方言に分けて検討する。以下、第2節と第3節をそれぞれ共通語である北京語及び諸方言の記述に当て、最後の第4節では、今後の課題について述べる。

なお、本稿で追究しているのはあくまで構文的手段としての構文パターンであり、イントネーションのような音声的手段に関しては、必要に応じて触れることはあっても研究の対象ではない。

2 北京語のイエス・ノー疑問文の構文パターンについて

北京語のイエス・ノー疑問文のことについて考える前に、まず疑問文の全体像を押さえておきたい。北京語の疑問文は、刘月华・潘文娱・故桦著(2001)、张斌主编(2010)、吕叔湘主编(2015)などの代表的な文法書において、次のように、4タイプに分けて取り扱われている。

- (1) 是非問句
- (2) 正反问句/反复問句

¹ 2014年4月19日(土)土曜ことばの会において、「「正反質問型言語」から「質問マーカー型言語」へ—言語接触による言語変化の角度から—」というテーマで口頭発表をしている。

(3) 特指問句

(4) 选择問句

これに対応する日本語訳を藤堂明保・相原茂著(1985)や王占華・一木達彦・苞山武義編著(2004)を参考に
にして与えると、次のようになる。

(1) 是非問句 ⇒ 諾否(イエス・ノー)疑問文

(2) 正反问句/反复問句 ⇒ 反復疑問文

(3) 特指問句 ⇒ 疑問詞疑問文

(4) 选择問句 ⇒ 選択疑問文

英語や日本語の疑問文の体系にない、正反问句/反复問句(反復疑問文)というタイプを有していること
が、その特徴である。

「正反问句/反复問句(反復疑問文)」とは、次の例(1)のように、述語部が肯定+否定という形で「反
復」している疑問文のことを指す。「不来」は「来」の否定である。

(1) 你明天来不来学校?

逐語訳：あなた、明日学校に来るか来ないか?

意識：明日学校に来る?

上述の意識を見れば分かるように、この「正反问句/反复問句(反復疑問文)」というものは機能的に日
本語のイエス・ノー疑問文に当たる。このような主張は早くには范继淹(1982)において、なされている。
范继淹(1982)では、次の「正反问句/反复問句(反復疑問文)」である①～④の4パターンと「是非問句(諾
否(イエス・ノー)疑問文)」の⑤²との比較がなされ、そのいずれもイエス・ノー疑問文の同義異形のバリ
エーションだという結論が出されている。

①你带雨衣不带雨衣? ——带(不带)

②你带不带雨衣? ——带(不带)

③你带雨衣不带? ——带(不带)

④你带雨衣不? ——带(不带)

⑤你带雨衣吗? ——带(不带)

筆者は范继淹(1982)の主張に全面的に賛同する。つまり、文の命題が真か偽かを問うイエス・ノー疑問
文の役目を果たすために、北京語には、「正反问句/反复問句(反復疑問文)」の「V³+否定辞(+V)」、及び、
「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」の「V+吗」という2種類の構文的パターンが存在するというこ
とである。一つの表現的機能を担うのに、必ずしも形式が1種類しかありえないというわけではない。
日本語を例にすると、他言語の形容詞にあたるものに、イ形容詞(国語学での「形容詞」)とナ形容詞(国
語学での「形容動詞」)の2種類が存在することはよく知られていることである。

² ①から⑤までのどのパターンも日本語に訳せば、質問文は「レインコートを持っていく?」となり、肯定的な答えは「はい」、否定的な答えは「いいえ」となる。

³ 本稿で使うVは、VPを指す。VPにおけるVには、動詞だけではなくて、形容詞や名詞+コピュラも含まれる。

もつとも、それが2種類である場合には、それなりに理由がある。北京語には、文の命題が真か偽かを問うのに、上述の「正反问句/反复问句(反復疑問文)」と並んで、「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」と呼ばれる次の例(2)のようなタイプがある。これは文末に疑問マーカ―としての「吗」がつく形となっている。

(2) 你喜欢足球吗? (サッカーは好きか。)

この「吗」は普通日本語では、終助詞の「か」に訳されるが、王力(1958)、太田辰夫(1958)及びその後の研究によってすでに定説となっているように、唐の時代の中国語の存在動詞である「有」の否定辞である「無」が、文法化して生じたものなのである。以下が唐詩にあった「無」の実例である。ただし、用例の番号は本稿のものである。

(3) 秦川得及此間無? (李白詩) (秦川はここにおよぶことができるか)

肯訪浣花老翁無? (杜甫詩) (浣花溪に住む老翁を訪ねてくださるか)

(太田辰夫(2013)『中国語歴史文法 新装再版』pp.361)

こうすると、「正反问句/反复问句(反復疑問文)」が「V+否定辞(+V)」という構文パターンを取るだけでなく、「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」の「V+吗」も本来「V+否定辞」であるために、「V+否定辞」を取ると言え、北京語のイエス・ノー疑問文における構文パターンは、新、旧という2種類の「V+否定辞」から構成されているということになる。

そこで、本稿では、この種の北京語のイエス・ノー疑問文の構文パターンを「新旧“V+否定辞”併用型」と名付けておく。古い“V+否定辞”のパターンと新しい“V+否定辞”のパターンが並行して用いられているという意味である。

なお、北京語には、否定辞が2つあり、一つは“不[pu]”で、一つは“没[mei]”である。その使い分けを未完了時制に限定して言えば、存在動詞の「有」を除くすべての動詞、形容詞及びコピュラの「是」の否定辞を務めるのが“不[pu]”で、存在動詞の「有」の否定辞が“没[mei]”である。“没[mei]”も“吗[ma]”も古代中国語におけるその祖型は「無」であり⁴、現代になっても子音が同じ[m]であることで連繫を有している。この知識は以下の検討においてところどころ参考にするところがある。

3 現代における諸方言のイエス・ノー疑問文の構文パターン

北京語のイエス・ノー疑問文の構文パターンが「新旧“V+否定辞”併用型」であるとすれば、共通語の北京語と共時的に存立するほかの諸方言ではどうであろうか。中国の方言区分に関しては、「北方方言、吳方言、閩方言、粵方言、客家方言、贛方言、湘方言」という7区分説と、これに「徽語、晋語、平話」の三つを加えた10区分説の2種類が有力だが、諸方言の疑問文を体系的に記述した邵敬敏他(2010)では、

⁴ 王力(1980)《汉语史稿 修订本》pp. 452

前者の7区分説が採用されているので、本稿でもさしあたって7区分説を取る。方言のデータは基本的に邵敬敏他(2010)にあるものを使用するためである。

邵敬敏他(2010)は以下の3つの編からなっている。

上編 汉语方言疑问范畴研究

中編 汉语方言特色疑问句研究

下編 汉语方言译文范畴比较研究

「上編 汉语方言疑问范畴研究」では、7方言の疑問文がまとまった形で記述され、「中編 汉语方言特色疑问句研究」は、一部の方言におけるいわゆる特色を有する疑問文についての論の集まりで、「下編 汉语方言译文范畴比较研究」には、編の名前のとおり、いくつかのテーマに関する比較研究の論文が収録されている。本稿の第3節では、この邵敬敏他(2010)の記述を利用して議論していくが、主に使用するのは、「上編 汉语方言疑问范畴研究」の7章と「中編 汉语方言特色疑问句研究」にある「陝北方言的正反是非问句(陝北方言の正反型イエス・ノー疑問文)」の、合わせて8章分である。

以下、邵敬敏他(2010)の順序に従い、まずその上編にある北京語を除く6つの大方言を、それから、中編に収録されている陝北方言のイエス・ノー疑問文を逐一見ていくこととする。

なお、上述の6+1という7方言のいずれに関する記述においても、すべて北京語に倣って、「正反问句/反复问句(反復疑問文)」と「是非问句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」は別立てで行われている。この点を前提として踏まえた上で、以下では議論を進めていくことにする。

3-1 吳方言

邵敬敏他(2010)の上編の第二章⁵では、吳方言が取り上げられ、その代表例が上海方言となっている。吳方言における「是非问句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」の「吗」に当たる疑問マーカーは「口伐」⁶とされ、以下のように分析されている。

上海方言の疑问句常常用“勿”煞尾，读为入声[vəʔ]。例如：

- ① 侬明早去勿？
- ② 侬讲闲话算数勿？
- ③ 衣裳好看勿？
- ④ 伊是美国人勿？

这个“勿”，我们通常可以看作是“V 勿 V”的后省式，因为可以这样还原：

- ①' 侬明早去勿？ —— 侬明早去勿去？
- ②' 侬讲闲话算数勿？ —— 侬讲闲话算数勿算数？
- ③' 衣裳好看勿？ —— 衣裳好看勿好看？
- ④' 伊是美国人勿？ —— 伊是美国人勿是？

⁵ 第一章是北京語についての記述であるため、諸方言を対象とする節では取り上げない。

⁶ 「口」と「伐」の二文字が使われているが、本来は一文字である。このような方言で使われる文字がフォントにないために、そうしている。

这个“勿”在书面上跟否定副词“勿”同形，所以我们可以看作是正反问的省略格式，但是，在口语中读作轻声，语义也明显虚化，表示否定的意义不那么明确了，所以我们有理由相信它正在虚化为一个疑问语气词。这类疑问句的语调比较平缓，疑和信各半，没有明显的倾向。

“口伐”字问句，我们认为是在“勿”的基础上加上“啊”构成的，读为[va]，表示对某个问题确有怀疑，基本上不清楚，所以要发问，希望对方给以明确回答，是求证性询问，相当于普通话的“吗”字的求证问句，这就属于是非问句了。例如：

- ⑤ 侬是北京人口伐？
- ⑥ 伊有迭本书口伐？
- ⑦ 夜饭侬吃过口伐？
- ⑧ 香港伊去过口伐？

(pp.0-31)

以上の引用を要約すると、否定辞の「勿」はよく文末に使われて疑問を表わすので、これを疑問マーカ―として文法化される途中のものとする。そして、疑問マーカ―の“口伐[va]”は、この「勿」に“啊(ア)”という音が加わることで、生じたものだという内容である。

第1節の終わりに、北京語における否定辞の“不[pʊ]”と“没[mei]”について説明したが、吳方言では、北京語の“不[pʊ]”と“没[mei]”のどちらにも“勿[vəʔ]”が対応する。そして、文末に来る“勿[vəʔ]”自体も疑問マーカ―として文法化されつつあるものと見られ、また、これに“啊(ア)”が加わって生じた“口伐[va]”が、吳方言の「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」の疑問マーカ―だとすれば、この吳方言も北京語の場合と同じく、「新旧“V+否定辞”併用型」というのが、そのイエス・ノー疑問文の構文パターンの特徴だととらえるべきであろう。

3-2 湘方言

邵敬敏他(2010)の第一編の第三章では、湘方言が取り上げられ、その代表例は湖南省娄底市新化県の方言となっている。この方言は「新化话是非问只有语气词是非问，无语调是非问」(pp.45)で、つまり、「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」にはイントネーションが全く効かないので、傾きを持つ「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」と傾きを持たない「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」とで、合わせて「ㄎ[a]」、「ㄎ[æ]」、「ㄎ[yo1i]」、「吗[mA]」、「吧[pA]」、「喃[na]」、「喃嘞[nalə]」という7つの疑問マーカ―を有するという。

7つの疑問マーカ―のうち、傾きを持つ疑問文に前の5つが、中立的疑問文に後ろの“喃[na]”、“喃嘞[nalə]”という2つが用いられるようだが、傾きを持つ疑問文よりも中立的疑問文がイエス・ノー疑問文の原型であることから、中立的疑問文に用いられる“喃[na]”、“喃嘞[nalə]”を重要視しなければならない。

北京語の“不[pʊ]”と“没[mei]”に対応する湘方言の否定辞は、“唔[ŋ]”と“冇[mao]”になっている。その“冇[mao]”と“喃[na]”、“喃嘞[nalə]”との間に子音の共通性が認められないし、“喃[na]”、“喃嘞[nalə]”が否定辞から来たという研究もない。したがって、この湘方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンは、「“V+疑問マーカ―”・“V+否定辞”併用型」と名付けるべきであろう。

3-3 贛方言

邵敬敏他(2010)の第一編第四章では、贛方言が取り上げられ、その代表例は湖南省宜春市宜丰县の方言となっている。この方言も「贛方言是非問句必須匹配语气词，这是与普通话的明显不同之处，也就是说，仅凭语调表达疑问的是非问句在贛方言里是不存在的」(pp.59)のように、「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」にはイントネーションが全く効くことがなく、その代わりに、北京語の「吗」に相当する疑問マーカである“墨(mæ)”が用いられている。この“墨(mæ)”を用いた疑問文については、次のように記述されている。

这是典型的是非问句。说话人对客观事实未能掌握足够的信息，主观上无法作出肯定或否定的判断，故而通过提问来获得答案。语气词“墨”相当于普通话的“吗”。请看下面的例句：

- ①你昨日上了课墨？（你昨天上了课吗？）
- ②你哩爷晓得你归来了墨？（你爸爸知道你回来了吗？）
- ③天气预报话明日会落雨墨？（天气预报说明天会下雨吗？）
- ④他是开得车积来咯墨？（他是开着车来的吗？）

(pp.60)

この“墨(mæ)”を使った疑問文が贛方言の典型的な「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」であり、“墨(mæ)”が北京語の「吗」に相当するというが、この“墨(mæ)”が否定辞から来たものかどうかについては、言及されていない。

否定辞から来たのではないとすれば、この方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンは、3-2の湘方言と同じく「V+疑問マーカ・V+否定辞併用型」となる。一方、この“墨(mæ)”が否定辞から来たものならば、この方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンは、北京語や呉方言のように、「新旧V+否定辞併用型」と言える。この“墨(mæ)”が否定辞から来たものかどうかについては、将来の研究を待つしかないが、北京語の“不[pu]”と“没[mei]”に対応するこの方言の否定辞は“不[pu]”と“冇[mao]”であり、“墨(mæ)”がこの“冇[mao]”と子音が共通していることから、否定辞から来た可能性が高いと言えよう。だとすれば、この方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンは、「V+疑問マーカ・V+否定辞併用型」よりは、北京語や呉方言のような「新旧V+否定辞併用型」と見たほうがよからう。

3-4 客家方言

邵敬敏他(2010)の第一編第五章では、客家方言が取り上げられ、その代表例は江西省贛州市石城县の方言となっている。この方言の「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」の疑問マーカには、“么[mo]”、“吧/吧喇[pa/pala]”、“咪[mi]”、“淮[fai]”、“啊[a]”、“囉[xo]”の6種類あるとされているが、中立的疑問文に使えるのは“么[mo]”だけなので、以下この“么[mo]”に限定して論を進める。

この“么[mo]”が、名詞述語、形容詞述語、動詞述語、さらに存在動詞のいずれの後にもついて中立的疑問を果たすという記述に続いて、次のように、否定構文にはつかないことが特に強調されている。

要特別注意的是, “S+么”中的S 只能用肯定陈述, 即“么”不能用在否定陈述后。例如:

- ① *今朝蛮係年初三么?
- ③ *饭冇熟么?
- ⑥ *秀嘢冇起床么?
- ⑦ *猪冇大么?

(pp.75)

4つの文法的ではない用例に対応する北京語及び日本語訳を以下に示しておく。

- *今朝蛮係年初三么? <今天不是正月初三吗?(今日は1月3日ではないか)>
- *饭冇熟么? <饭还没熟吗?(飯はまだ熟していないか)>
- *秀嘢冇起床么? <秀儿还没起床吗?(秀ちゃんはまだ起きていないか)>
- *猪冇大么? <萝卜长得茂盛吗?(大根はよく育っていない)>

論理的に考えれば、このことは、“么[mol]”が否定辞の“冇[maol]”から来ていることを支持するものである。否定構文にはつかないことは、否定辞が二重に使われるということのを避けるためだと考えられるからである。

この仮説に対して、北京語のように、否定辞である「無」から生じた「吗」が否定構文の後につくのではないかという議論は可能である。このことに関しては、北京語の「吗」の文法化の程度が高く、すでに否定の意味合いが完全に消えて、疑問マーカー化しているという解釈で、問題を解決できるのではないと思われる。つまり、まだ文法化の度合いが低く、否定のイメージが強いときは、否定構文の後につかず、それに対して、文法化の度合いが高く、否定のイメージが薄らいてしまった場合は、否定構文についてももう抵抗はないという論理である。

さらに言うと、北京語の“不[pul]”と“没[mei]”に対応する客家方言の否定辞は“唔[n]”と“冇[maol]”であり、疑問マーカーである“么[mol]”は“冇[maol]”と共通した子音を持っているので、冇[maol]”から来ている可能性が高い。したがって、この客家方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンも、北京語や呉方言のように、「新旧“V+否定辞”併用型」と考えるべきであろう。

3-5 閩方言

邵敬敏他(2010)の第一編第六章では、閩方言が取り上げられ、その代表例は福建省福州市の方言となっている。ただし、以下の引用にあるように、この福州市の方言を「閩東方言」と名付け、これをこれとは系統が違うアモイや泉州で話されている「閩南方言」というもう一種の閩方言と比較しながら、記述が行われているというのがこの章の特色である。

福州是福建省的省会，福州话是闽东方言的代表方言，具有闽语的许多共同特点。闽南方言是指以厦门（或泉州）话为代表的分布于福建南部地区的闽语。当然，福州话与闽南话也有一些差异，疑问范畴亦不例外。本文主要介绍以福州话为代表的闽东方言，必要的时候也跟闽南方言做一些比较。

(pp.96)

ここで、まずこの方言の否定辞の体系について説明しておいた方がよかろう。北京語をはじめ、今まで取り扱った方言の否定辞は、基本的に2つであるのに対して、この方言では、古代中国語の「不」、「無」、「未」というシステムを保持しており、否定辞の体系は“不(不)”、“无”、“未”という3つの形からなっている。かつて「無」は存在動詞である「有」の否定形、「未」は動詞が完了時制に置かれているときの否定形であったが、北京語をはじめ、現代の多くの方言では、この2つはすでに一つになってしまい、北京語では、“没[mei]”がそうである。しかし、この方言ではすべて健在であるというのがその特徴である。

この知識を踏まえて、以下の引用を見てみよう。

由于福州话的否定词“不”（不）的黏附性极强，必须依附于谓语动词之后，不可以单独回答问题，只有“无”、“未”可以置于句末，似乎类于“吗”，但实际上跟普通话的“吗”还有不同。例如：

⑪汝有去无？（=你去了吗？）

⑫汝食未？（=你吃了吗？）

上述两句普通话可以用“是”、“不”来作答，而福州话只能用“有/无”、“食了/未食”来作答，因此这种句式其实是正反问句的省略，即：

⑪'汝有去无去？

⑫'汝食未食？

闽南话的情形也有类似之处，只是闽南话的疑问语气词“不”、“无”、“未”通常读轻音形式，表明已经有所虚化。例如：

⑬伊要来不？（他要来吗？）

⑭王先有来恁兜无？（王先生来你家了吗？）

⑮小陈睏醒未？（小陈睡醒了吗？）

(pp.97)

長い引用だが、要約をすると、「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」の疑問マーカーとして、「閩東方言」である福州方言では“不(不)”を除く“无”、“未”の2つが、「閩南方言」では、“不(不)”、“无”、“未”の3つともが用いられている。その意味役割は、北京語の「吗」と同じだが、ただし、返答する際には、北京語の「吗」がそのままでは使えないのに対し、この方言の否定辞はそのまま使わなければならないという指摘である。「⑫汝食未？（=你吃了嗎？）」を例にすると、括弧の中の北京語の「你吃了嗎？(食事をしたか)」の否定的な答えとしては、「吗」が使えず、「还没吃(まだしていない)」のように、否定

辞の「没」を使わなければならない。一方、この方言では、「汝食未?(食事をしたか)」に対して、「未食(まだしていない)」のように、「未」がそのまま使えるということである。答えにおけるこのレベルの違いは、「吗」が完全に文法化して、疑問マーカールになっているのに対して、この方言の否定辞はまだ文法化の過程の途中にあるという形で説明できよう。「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」であるのに、否定辞しか使えないということは、この閩方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンは、「V+否定辞」一色型」ととらえなければならない有力な論拠になるであろう。

この方言の言語事実のもう一つの面白いところは、福州方言における3つの否定辞の中で、古代中国語の「不」に相当する“不(不)”が疑問マーカールとして用いられないことである。北京語の「吗」は「無」が文法化して生じたことは定説となっているが、唐代には、「不」も「無」と同じく文末に用いられていたにもかかわらず、なぜ「不」は文法化せずに、「無」は文法化したのかについては、未解決の課題である。したがって、福州方言における“无”、“未”しか疑問マーカールとして用いられないというこの現象は、その解決の手がかりを提供してくれるかもしれない。

3-6 粵方言

邵敬敏他(2010)の第一編第七章では、粵方言が取り上げられ、その代表例は广东省广州市の方言である。この場合の「是非問句(諾否(イエス・ノー)疑問文)」を作る疑問マーカールは、“嘛[ma]”である。北京語の「吗」とは発音が同じでありながら、声調が違うようで、両者の意味・機能上の違いについては、次のように記述されている。

语义单一，不会产生歧解。属于一般询问句，中性问。问话人事先没有确定的答案，纯粹是对所不了解的事实的提问，想从对方那里得到答案。例如：

- ①老细同意嘛？（老板同意吗？）
- ②佢有问过你嘛？（他问过你吗？）
- ③嗰度交通方便嘛？（那儿交通方便吗？）
- ④你嘅仔出年返嚟嘛？（你儿子明年回来吗？）

这跟普通话的“S+吗?”不同，该句式具有两种功能：一是想从对方得到答案的询问，与广州话“S+嘛?”相当；二是用于表示诧异、怀疑或完全不信。广州话的“S+嘛?”不能用于诧异问。试比较：

- ⑤广州话：你中意佢嘛？（你喜欢他吗？）（只能是一般询问）
- ⑥普通话：你喜欢他吗？（a.一般询问；b.惊讶）

(pp.106)

長い引用だが、要するに、北京語の「吗」は、中立的な疑問と不信という傾きを持つ疑問という2種類の疑問を表わすが、粵方言の“嘛[ma]”は前者の中立的疑問の機能しか担っていないということである。考えてみれば、日本語の「か」も北京語の「吗」に似ていて、傾きを持つ疑問をも表せるが、イエス・ノー疑問文の原型は中立的疑問であり、粵方言の“嘛[ma]”は間違いなくイエス・ノー疑問文を作る疑問マーカールである。

閩方言と同じく、粵方言の否定辞の体系も2つではなく、3つの形式からなっており、それが“唔”“冇”“未”である。この邵敬敏他(2010)の第一編第七章における否定辞には、国際音声記号がついていないので、正確な発音は分からないが、“冇”は普通[mo]か[mau]と発音するので、“嘛[ma]”と共通した子音を持っており、“嘛[ma]”が北京語の「吗」のように、古代中国語の「無」から文法化して生じた可能性が高い。したがって、粵方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンは、北京語と同じく、「新旧“V+否定辞”併用型」と考えるべきであろう。

一方、粵方言の“嘛[ma]”と北京語の「吗」の違いは大きな意味を持つとも考えられる。「吗」が唐代の「無」から来たということが定説になっていても、唐代の「無」がそもそも不信という傾きを持つ疑問を表わせたのであろうか。まず唐代の「不」、「無」、「未」や、「閩南方言」の“怀(不)”、“无”、“未”といった3つの否定辞はともに文末に使われる段階があり、それから、「閩東方言」のように、“怀(不)”を除く“无”と“未”の2つだけが文末に使われるようになる。その次の段階で、“无”と“未”が混同して一つになり、粵方言の“嘛[ma]”と化し、それがさらに怪しむ意味の傾きを持つ疑問をも表せるようになり、北京語の「吗」として定着するという文法化の経路を想定してみたいが、全くの空想であろうか。

3-7 陝北方言

上にも述べたように、陝北方言についての記述は、邵敬敏他(2010)の第一編に入っているのではなく、第二編に入っている。七大方言説における北方方言は、大きく「華北方言、西北方言、西南方言、江淮方言」の4つに分けられ、北京語が「華北方言」属するのに対して、陝北方言は「西北方言」に属する。なお、十大方言説を取れば、この陝北方言の一部は晉方言に入り、一部は北方方言における「中原官話」に入るかと思われる。以下、北京語と比較したその記述を見てみよう。

(北京話的)是非問則有两种形式，一是采用表疑问的上扬语调，二是句尾带上疑问语气词“吗”或“吧”。陝北方言典型的是非問句只有第一种，而没有第二种，但多出来一种类似于正反问的形式表达是非选择的格式“VP·Neg?”。

(pp.150)

(省略—笔者)

从语义功能考察，我们发现“VP·Neg?”式问句的问话和答语跟普通话的是非问句基本对应，其句尾的“不”、“没”语义已经虚化，跟普通话的“吗”字作用相当。试比较：

陝北方言	普通话
问:今天是二月二不?	今天是二月二吗?
答:是嘞。/不是。	是的。/不是。

(省略—笔者)

问:给花浇水来来没?	给花浇水了吗?
答:浇来来。/没浇。	浇了。/没浇。

(pp.152)

要するに、北京語のような“吗”を用いた「正反问句/反复问句(反復疑問文)」はないが、“VP-Neg?”、本稿の言い方に置き換えれば、「V+否定辞」がその代わりに用いられ、機能的には北京語の“吗”を用いた「正反问句/反复问句(反復疑問文)」と異なるところがなく、否定辞の“不”と“没”の意味がかなり漂白化しているのではないかということである。

否定辞が3つから2つになっているのは、北京語と同じだが、“不”も“没”もそのまま疑問マーカのように文末に使われ、また、答えとしても使えるのは、むしろ「閩南方言」と同じく、唐代の中国語の様子を保っていると言える。したがって、この方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンは、閩方言と同じく、「V+否定辞’一色型」と言うべきであろう。

4 まとめ

北京語を検討した第2節に続き、第3節では、引き続き邵敬敏他(2010)に基づき、中国語の7つの方言のイエス・ノー疑問文の構文パターンについて、考察を加えた。その結論を一つの表にまとめると、次のようになる。疑問マーカが中立的疑問とそうでない疑問に分かれているときには、中立的疑問を担うものを示す。

	否定辞	(1)疑問に使われる否定辞 (2)疑問マーカ	イエス・ノー 疑問文の構文パターン
北京語	不[pu]、没[mei]	(1)不[pu]、没[mei] (2)吗[ma](否定辞から)	新旧“V+否定辞”併用型
呉方言	勿[vəʔ]	(1)勿[vəʔ] (2)口伐[va](否定辞から)	新旧“V+否定辞”併用型
湘方言	唔[n]、冇[mao]	(1)唔[n]、冇[mao] (2)喃[na]、喃嘞[nalə]	“V+疑問マーカ”・“V+否定辞”併用型
贛方言	不[pu]、冇[mao]	(1)不[pu]、冇[mao] (2)墨(mæ)(否定辞から)	新旧“V+否定辞”併用型
客家方言	唔[n]、冇[mao]	(1)唔[n]、冇[mao] (2)么[mo](否定辞から)	新旧“V+否定辞”併用型
閩方言	怀、无、未	(1) (怀)、无、未 (2) (怀)、无、未	“V+否定辞”一色型
粵方言	唔、冇、未	(1)唔、冇、未 (2)嘛[ma](否定辞から)	新旧“V+否定辞”併用型
陝北方言	不、没	(1)不、没 (2)不、没	“V+否定辞”一色型

新旧“V+否定辞”併用型かどうかを決める推理の過程において、飛躍があることは認める。だが、論理的に考えても、“V+否定辞”一色型、新旧“V+否定辞”併用型、“V+疑問マーカー”・“V+否定辞”併用型の3型しかありえない。冒頭に述べたように、典型的な孤立型 SVO 言語のイエス・ノー疑問文では、「正反並列型」というまったく別のパターンが用いられるが、“V+否定辞”一色型はつまりこの「正反並列型」なのである。「V」と「否定辞」がそれぞれ「正」と「否」なのである。つまり、現代中国語の一部の方言では、少なくともイエス・ノー疑問文の構文パターンにおいては、典型的な孤立型 SVO 言語の振る舞い方をしているのである。そして、新旧“V+否定辞”併用型はこの典型的な孤立型 SVO 言語の振る舞い方からある程度ずれ、“V+疑問マーカー”・“V+否定辞”併用型はさらに遠ざかっていることになる。

しかし、“V+否定辞”一色型、新旧“V+否定辞”併用型、“V+疑問マーカー”・“V+否定辞”併用型の3型は、必ずしも南から北へと分布をなしているわけではない。この意味では、以下のような、橋本(1978)の捉え方の射程を超えた事態となっている。

さて、この点でまことに興味深いのは、アジア大陸に話されている言語である。北部に話されている言語はツングース語といいモンゴル語といいトルコ語といい、圧倒的に逆行構造に統一されている。……これに対して南部に話されている言語は、タイ諸語であろうとモン・クメール語であろうとベトナム語であろうと大部分が、順行構造の統辞法をもととしている。

(略—著者),

この両者のあいだに分布する「中国語」はけっして等質ではなく、北にのぼればのぼるほどアルタイ語式の逆行構造がみられ、南にくだればくだるほど南アジア語式の順行構造が見られるからである。

(pp.40-41)

広い地域で話されている北方方言をはじめ、“V+否定辞”一色型、新旧“V+否定辞”併用型、“V+疑問マーカー”・“V+否定辞”併用型の3型の正確な分布を明らかにしてはじめて、典型的な孤立型 SVO 言語の性格が薄れていく理由や過程を突き止めることができるであろう。

典型的な孤立型 SVO 言語の性格と言っているが、この場合の「典型的な」はより「SVO」よりも「孤立型」により掛かっていると思われる。チベット・ビルマ語派の一部の孤立型 SOV 言語にも“V+否定辞”構造が見られるからである。いずれも今後の課題とする。

参考文献

- 王占華・一木達彦・苞山武義編著(2004)『中国語学概論』駿河台出版社
- 太田辰夫(1958)『中国語歴史文法』江南書院。後、太田辰夫(2013)『中国語歴史文法 新装再版』朋友書店
- 藤堂明保・相原茂著(1985)『新訂中国語概論』大修館書店
- 西田龍雄(2000)『東アジア諸言語の研究 I』京都大学学術出版会
- 橋本萬太郎(1978)『言語類型地理論』弘文堂
- リンゼイ J. ウェイリー著、大堀壽夫・古賀裕章・山泉実訳(2006)『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性』岩波書店
- 范继淹(1982)<是非問句の句法形式>《中国語文》1982(6): 426-434.
- 蒋绍愚・曹广顺(2005)《近代汉语语法史研究综述》商务印书馆.
- 刘月华・潘文娉・故桦著(2001)《实用现代汉语语法 增订本》商务印书馆. 原版《实用现代汉语语法》出版于 1983 年.
- 吕叔湘主编(2015)《现代汉语八百词 增订本》商务印书馆. 原版《现代汉语八百词》出版于 1980 年.
- 邵敬敏他(2010)《汉语方言疑问范畴比较研究》暨南大学出版社.
- 王力(1980)《汉语史稿 修订本》中华书局. 原版《汉语史稿》(北京大学汉语史教材) 出版于 1958 年.
- 张斌主编(2010)《现代汉语描写语法》商务印书馆.
- Dryer, Matthew S. 1992. "The Greenbergian Word Order Correlations." *Language*. 68: 81-138.
- Sadock, Jerrold M. and Arnold M. Zwicky. 1985. Speech Acts Distinctions in Syntax. In Timothy Shopen, (ed.), *Language Typology and Syntactic Description*, 155-196. Cambridge: Cambridge University Press.
- Whaley, Lindsay J. 1997. *Introduction to Typology : The Unity and Diversity of Language*. California: Sage Publications.

本稿は金水敏教授がプロジェクトリーダーを務める国立国語研究所の「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」という共同研究プロジェクトの研究成果の一部である。記して感謝の意を表したい。